

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.8.5 No. 142 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地 米海兵隊KC-130Jで降下訓練

7月24日から27日までの4日間、横田基地で、米海兵隊・普天間基地・第36海兵航空群 第152海兵空中給油飛行隊によるパラシュート降下訓練が行われました。

KC-130Jは横田基地常駐のC-130H（ハーキュリーズ）を改良した最新型で「スーパーハーキュリーズ」と呼ばれています。

周辺自治体に情報提供があったのは23日、訓練開始の前日です。2日目の25日の訓練は、1000m以上の対地高度から、パラグライダーでの降下が4回行われました。6人の降下が3回、7人の降下が1回です。3日目の26日、訓練は5回行われ、6人の降下が4回、7人の降下が1回でした。4日目の27日は、300m位の高さからパラシュートで7人降下しただけだったようです。予定では1日に20人程度の降下訓練だったようで、延べ80人程度が訓練したのでしょう。

今回訓練に使われた海兵隊のKC-130Jは、ヘリコプターだけでなく、いま問題になっているオスプレイにも空中給油を行います。

パラシュート等降下訓練が終了した翌日の28日にはKC-135R（大型の空中給油機）が7機いたそうです。（3枚の写真と、訓練の様子は撤去の会HP内「ブログ」より）



米軍の最新鋭ステルス戦闘機F22 運用再開し嘉手納基地に飛来

ステルス戦闘機F22が7月28日、米空軍嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）に飛来しました。

F22はパイロットが低酸素症となるケースが相次ぎ、5月から運用が制限されていましたが、飛行服の不具合などを改善したとして、運用を再開し、28日には8機が飛来しました。

沖縄防衛局によると、米軍は計12機を約6か月間、嘉手納基地で運用する計画を日本側に伝えていています。同基地では2007年以降、年間数か月程度、F22の暫定配備が行われています。

8月4日 原水爆禁止世界大会 広島で開会総会 渡邊さん山口さん檀上へ

「核兵器のない世界」実現めざし8月4日から6日まで、原水爆禁止世界大会・広島が開かれています。4日の開会総会では、国民平和大行進の通し行進者が壇上に上がりました。東京から広島まで90日間を歩き続けた、羽村市の渡邊正郎さん（64歳）と映画プロデューサーの山口逸郎（80歳）さんも発言しました。（左写真）



（山口さんは「千羽鶴」、「ヒロシマの証人」、「ノーモア・ヒロシマ」、「歩く」など手がけ、「トビウオのぼうやはびょうきです」、「おこりじぞう」などの普及にも尽力。）



山口さんは、8月19日の第41回横田基地撤去の座り込みに、参加されるかもしれない、との情報あり。

オスプレイの横田基地への飛来・訓練 防衛省否定せず！ (No. 142 の裏面)

7月25日、日本平和委員会、東京平和委員会は、横田基地への欠陥機オスプレイの展開・訓練の中止と、岩国・沖縄への配備計画の中止を求める、防衛省交渉を行いました。前号 (No. 141) の写真は佐藤光雄・日本平和委員会代表理事が要請書を手渡しているところです。

横田基地周辺の住民からの「基地周辺は住宅などが密集している。住民の命、安全が脅かされる」との声に、防衛省側は「米軍は安保条約上、必要な訓練を行っている」などと答えました。

欠陥機オスプレイを沖縄をはじめ日本全国で低空飛行の訓練をする、米軍F 22 ステルス戦闘機も嘉手納で運用再開する、横田基地で米陸軍や海兵隊がパラシュート訓練をする、これらが米軍にとって必要な訓練なのですね。これって、米国の戦争のための訓練ですよ。憲法違反です！

外務省に オスプレイの配備中止を求め 要請行動

安保破棄中央実行委員会は8月2日、外務省に「オスプレイ配備中止を求める要請」を行うとともに、野田佳彦内閣総理大臣宛の「危険な米軍輸送機オスプレイの配備撤回を」の署名23,217筆を届けました。

オスプレイ配備を容認する政府に強く抗議するとともに、「政府は、オスプレイ配備の中止をアメリカに求めること」を要請しました。

(写真：外務省担当者に署名を渡す東森英男安保破棄中央実行委員会事務局長)



8月5日 沖縄と連帯 立川駅北口でオスプレイ配備を撤回せよ！と宣伝

8月5日は、オスプレイ配備に反対する沖縄県民大会が予定されていましたが、台風の影響で大会は延期になりましたが、横田基地もいらない10・27市民交流集会実行委員会が呼びかけた立川駅北口宣伝行動が行われ、10団体20人を超える参加者が集まり、1000枚近いチラシを配付しました。チラシは、予想以上の人々に受け取ってもらいました。



オスプレイ 日本での低空訓練 高度60メートルを想定？ 航空法違反だ！

航空法が定める最低安全高度は人口密集地で300メートル、それ以外で150メートルです。

ところが、米海兵隊の垂直離着陸機MV 22 オスプレイ配備に伴う米軍の「環境レビュー」の付属文書によると、日本で行う低空飛行訓練は、地上約60メートルを想定していると言うのです。

付属文書によると、現在、東北から九州にかけての低空飛行訓練ルートで訓練を行っているFA18戦闘攻撃機やAV8B電子攻撃機などは高度約150メートルでの飛行を想定しています。

これに対してオスプレイは、夜間・早朝(午後10時～午前7時)は高度150メートルとしていますが、それ以外の時間帯は高度60メートルでの飛行を想定しています。危険すぎます。

米軍の低空飛行訓練に関する1999年の日米合意は、「在日米軍は、国際民間航空機関や日本の航空法により規定される最低高度基準を用いて」と明記しています。これも無視ですか。

横田基地友好祭に関する安全確保等を地元自治体が要請

8月18日、19日に開催される横田基地友好祭について、横田基地に関する東京都と周辺市町連絡協議会は8月2日、横田基地司令官、防衛省北関東防衛局長等に、安全確保及び騒音対策の要請を行いました。(1)日米友好祭に関わる航空機の曲技飛行とも見てとれる危険な飛行行為を行わないようにするとともに、航空機騒音を最小限に止めるよう努めること。なお、友好祭当日のみならず、前後の日についても細心の注意を払うこと。(2)会場内及び基地周辺の安全対策、交通対策及び保健衛生面での安全確保等に当たり、運営管理に万全を期すること。などの要請です。